



被災時に使える制度

2016年(平成28年)4月1日より、「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン(被災ローン減免制度)」の運用が始まりました。

この制度は、2015年(平成27年)9月2日以降に災害救助法が適用された自然災害の影響で、住宅ローン等の支払が困難となった個人の債務者について、一定の要件のもとに住宅ローンなどの減額や免除を申し出ることができる制度です。

この制度は、国の補助により弁護士の「登録支援専門家」による手続支援を無料で受けることができます。個別事情にはよりますが、義援金等に加え、財産の一部を、ローンの支払いに充てず、手元に残すことができます。

また、破産等の手続とは異なり、債務整理をしたことは、個人信用情報として登録されないといったものになります。手続は、ご本人にしてくださいが必要ですが、手続についてのアドバイスを弁護士が行います。

利用にあたっては、最も多額のローンを借りている金融機関等へ、本ガイドラインの手続きを希望することを申し出て、金融機関から手続着手について同意を得ることが必要となります。同意が得られれば、地元の弁護士会を通じて、全国銀行協会に対し、登録支援専門家による手続支援を依頼します。登録支援専門家は、手続のお手伝いをいたします。

この制度のご利用をお考えでしたら、兵庫県弁護士会までご連絡ください。
窓口連絡先 兵庫県弁護士会総合法律センター

☎078-341-1717



被災時にそなえるシンポジウム

「兵庫社会福祉セミナーin淡路」

会場:洲本市文化体育館 2階研修室

11月10日(土)
13:30~17:00

11月11日(日)
9:30~12:00

【基調講演】

「災害支援における地域と福祉の連携 - 福祉専門職のできることに」

- 講師 凧 保憲 氏 (淡路市社会福祉協議会 事務局長)

【シンポジウム】

「福祉専門職と地域の関わりを考える」
福祉専門職として、南海トラフ地震がいつ起こるかもしれない今、今から出来ること・今から備えることのヒントを探ります。

● シンポジスト

土井本 環 氏 (阿万市民交流センターセンター長)
後藤 直子 氏 (南あわじ市手をつなぐ育成会 会長)
清水 茂 氏 (洲本市会議員)

● コーディネーター

城田 知志 氏 (洲本市社会福祉協議会 次長)

【講義・演習】

「ソーシャルワークの倫理と理論について考えよう」

担当: 本会独立型社会福祉士支援委員会
本会ソーシャルワーク研究委員会

12:00終了後にはオプションツアーもあります。淡路島の北部の震災記念館やあわじ花さじき等を散策し美味しいものも食して日頃の疲れを発散して頂きたいと思います。ぜひ、淡路においでください。

		1日目	2日目	両日
参加費	会員	2,000円	1,000円	3,000円
	一般	3,000円	2,000円	5,000円

※学生…1日目と2日目 無料
申込書は兵庫県社会福祉士のホームページにあります

「災害と社会福祉士」

学び、いろいろ。

～ゲームを通して防災を学ぶ～

災害は急に発生するもの。その時、あなたは？
いつもとは違う状況化で、異なる価値観が重なる中で、優先すべきものは何か？
そんな非常時の対応や行動をゲーム形式でシミュレーションして、
災害にそなえる方法をご紹介します。



避難所運営ゲーム (HUG)

避難所運営ゲーム(HUG)は、避難所の運営を皆で考えるためのアプローチとして2007年に静岡県危機管理局が企画・開発した防災カードゲームです。

避難所に訪れる人は様々です。避難者の年齢や性別、家族構成、現在の状況などが書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考えます。また、炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対し、想いのままに意見を出し、話し合いながら避難所の運営を学ぶことができます。

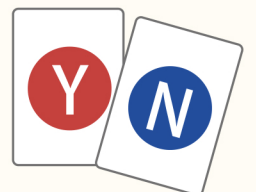
詳しくは静岡県地震防災センターのHPへ
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/about.html>

クロスロード (災害対応カードゲーム)

クロスロードは、阪神・淡路大震災で実際に災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成されたカードゲーム形式の防災教材です。クロスロードは「岐路」や「分かれ道」のことで、そこから転じて重要な決断を意味します。

カードには「3,000人いる避難所で、2,000食を確保したが、この食料を配るか配らないか」など、どちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような「ジレンマ」が多数。

プレイヤーは、「Yes」か「No」を選び、参加者同士がその答えを選んだ理由を聞くことで、多くの価値観や視点に出会うことができます。



詳しくは京大生活協同組合のHPへ
<https://u-coop.net/kyodai/crossroad/crossroad.html>